

囀りをくるみ不動の大樹かな

悦子

土手にひっそり犬のふぐりが

笈羅

古池や蝌蚪の円陣拡がらむ

恆雄

いくぞ、おー！と散るグラウンド

七緒

歌劇場真如の月にコロラトウーラ

果穂

菊人形も聞耳を立て

和子

ウ ドア開けるほんのり優しく柚子匂う

笈

あこがれの君髪をなびかせ

悦

ズラミート楽の音に乗り昇天す

七

誰もいぬエスカレーター上り降り

和

デパ地下へと誘われる午後

恆

お目当ては鮎の求肥の食べくらべ

果

月の出前に蛍灯ともす

七

転寝にカワニナ捕らえ夢の果て

笈

川の向こうに白亜の館

恆

花吹雪揺らぐ影やら光やら

悦

熊穴をでて市街に現る

果

ナオ 啓蟄といえどこの我蟄居中

和

この頃得意なパラパラチャーハン

笈

平成も遠くなりけりガンダロも

果

電車で本を読んでいたころ

七

賀状書く賀状仕舞いの挨拶に

和

陽を浴びてなのお凍蝶うごかず

恆

瑠璃色の鳥のブローチ襟につけ

悦

菩薩に紛う能登の炊出し

七

印度にはエロティックな神ありき

果

どこ探しても見つけられない

笈

宵の月明日の試合の秘策あり

和

眠る児護るか蟋蟀の声

恆

ナウ もしトラに怯える惑星銀漢に

七

各所に現る陰謀拠点

果

プッチンと潰す楽しみ商品化

笈

親の居ぬまにプリンを三個

悦

はろばろと波寄せ来たる花の雲

恆

制帽いろいろ遠足の生徒

和

和

連衆：悦子、笈羅、恆雄、七緒、果穂、和子